

平成28年1月12日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料7

総合的な学習の時間について

学習指導要領改訂の視点

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(人間性や学びに向かう力等)」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習評価の充実

何を学ぶか

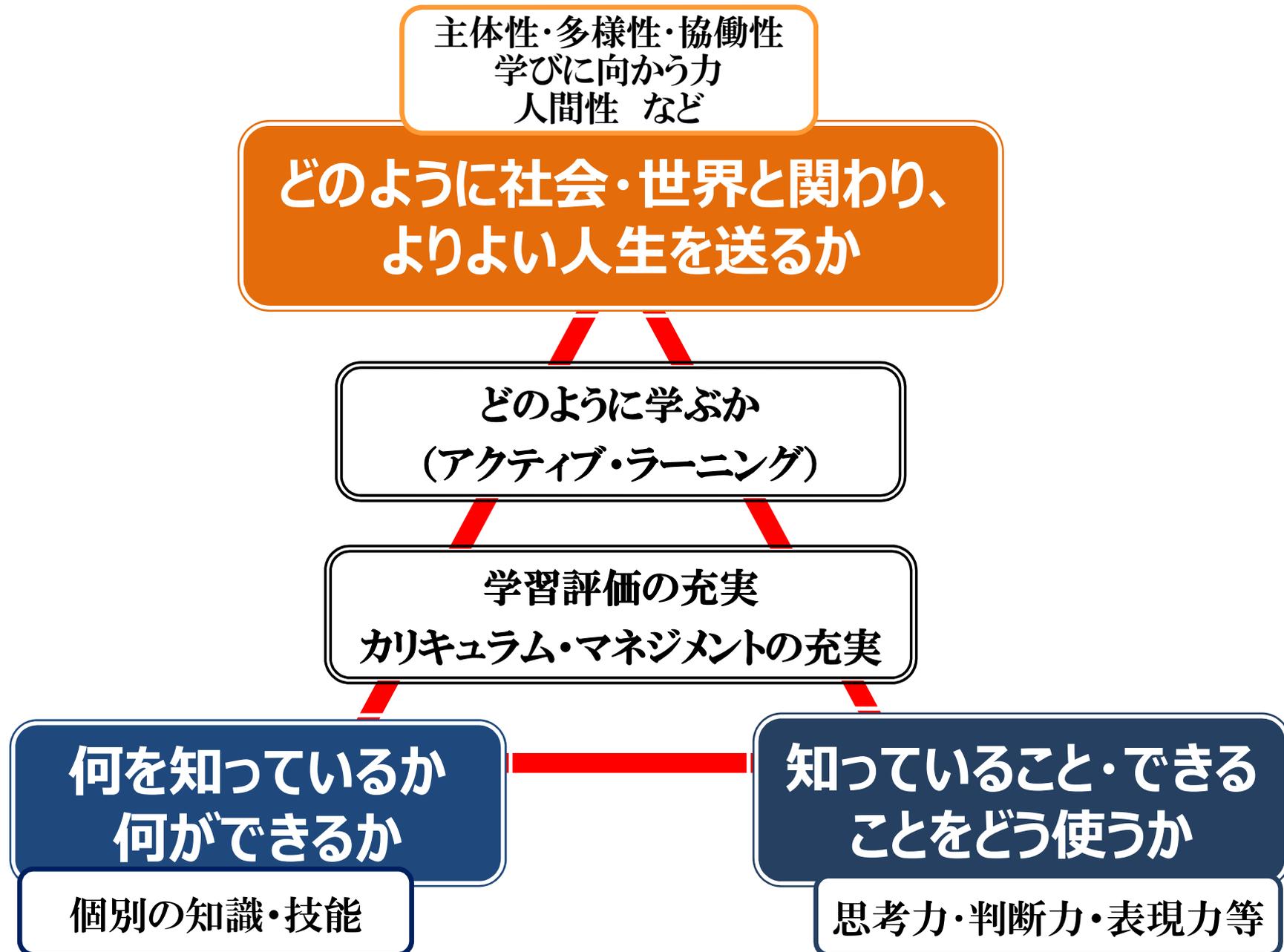
育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。) 等

どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの観点からの 不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか



学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。

人格の完成を目指す

教科横断的・総合的に育成すべき様々な資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

主体性・多様性・協働性

教科等間の往還 (カリキュラム・マネジメント)	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	教科等の本質に根ざした 見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
	教科学習	各教科に固有の知識や 個別のスキル	各教科の本質に根ざした問題解決 の能力、学び方やものの考え方
総合的な学習	(各学校で設定)	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的 な問題解決に取り組む態度
特別活動	集団の運営に関する方法や 基本的な生活習慣等	よりよい集団の生活を形成し、 自己を生かす能力	自主的、実践的に自己の役割や 責任を果たす態度等
道徳教育	道徳的価値	道徳的な判断力	道徳性

総合的に育成する学習プロセス

教科と総合的な学習の時間の関係性

社会

実社会の様々な場面で活用できる
汎用的な能力

総合的な学習の時間を通じた教科横断的な学び

各教科の文脈で身に付けたさまざまな能力

学校

総合的な学習の時間設置の経緯

* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究。

○平成8年7月:中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第一次答申)

○平成10年7月:教育課程審議会答申

—総合的な学習の時間の創設の提言—

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保
- ・社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保

○平成10年12月:小中学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、14年4月より全面実施)

平成11年3月:高等学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、15年4月年次進行で実施)

総合的な学習の時間の創設

○平成15年12月:学習指導要領の一部改正(公布日施行、高校は15年4月入学生から適用)

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等を相互に関連付けること
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用 など

○平成20年1月:中央教育審議会答申

- ・総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認。

位置付けの明確や、横断的・総合的な学習や探究的な学習の明確化が提言

○平成20年3月:小中学校学習指導要領告示(平成21年4月～先行実施)

平成21年3月:高等学校学習指導要領告示(平成22年4月～先行実施)

総合的な学習の時間の目標等

目標・内容の設定及び時数、単位数

■総合的な学習の時間の目標

「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方（高等学校では「在り方生き方」）を考えることができるようにする。」

第2 各学校において定める目標及び内容

1 目 標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

2 内 容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

■時数、単位数

- ・小学校3～6年生：各70時間
- ・中学校1年生：50時間、2・3年生：各70時間
- ・高等学校：3～6単位

各学校における内容の設定

- 内容として、**目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題**を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの**横断的・総合的な課題**、**生徒の興味・関心に基づく課題**、**学校の特色に応じた課題**、**職業や自己の将来にかかわる課題**などのことであり、**横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究的に学習**することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。

各学校における資質や能力及び態度の設定

■ 育てようとする資質や能力及び態度

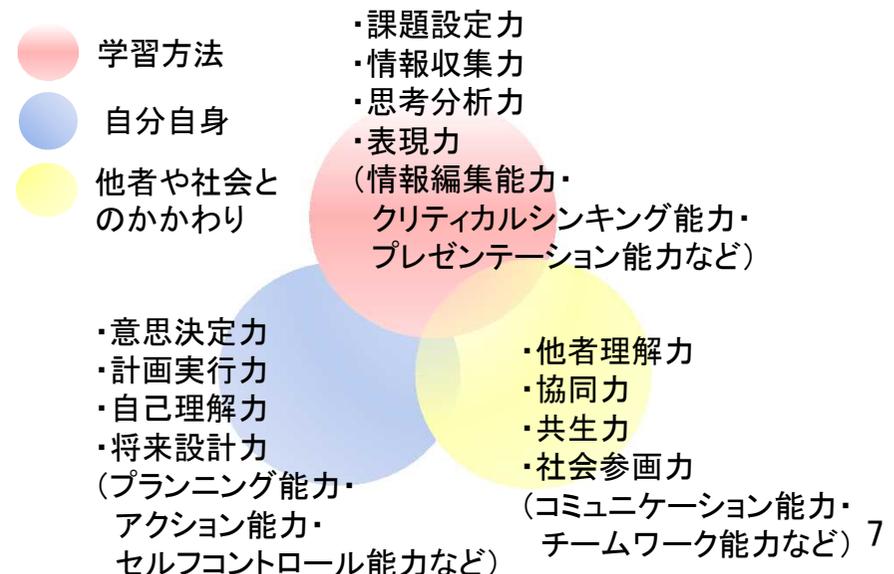
各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の二つにより、総合的な学習の時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示する。

■ 例えば、以下の三つの視点が考えられる

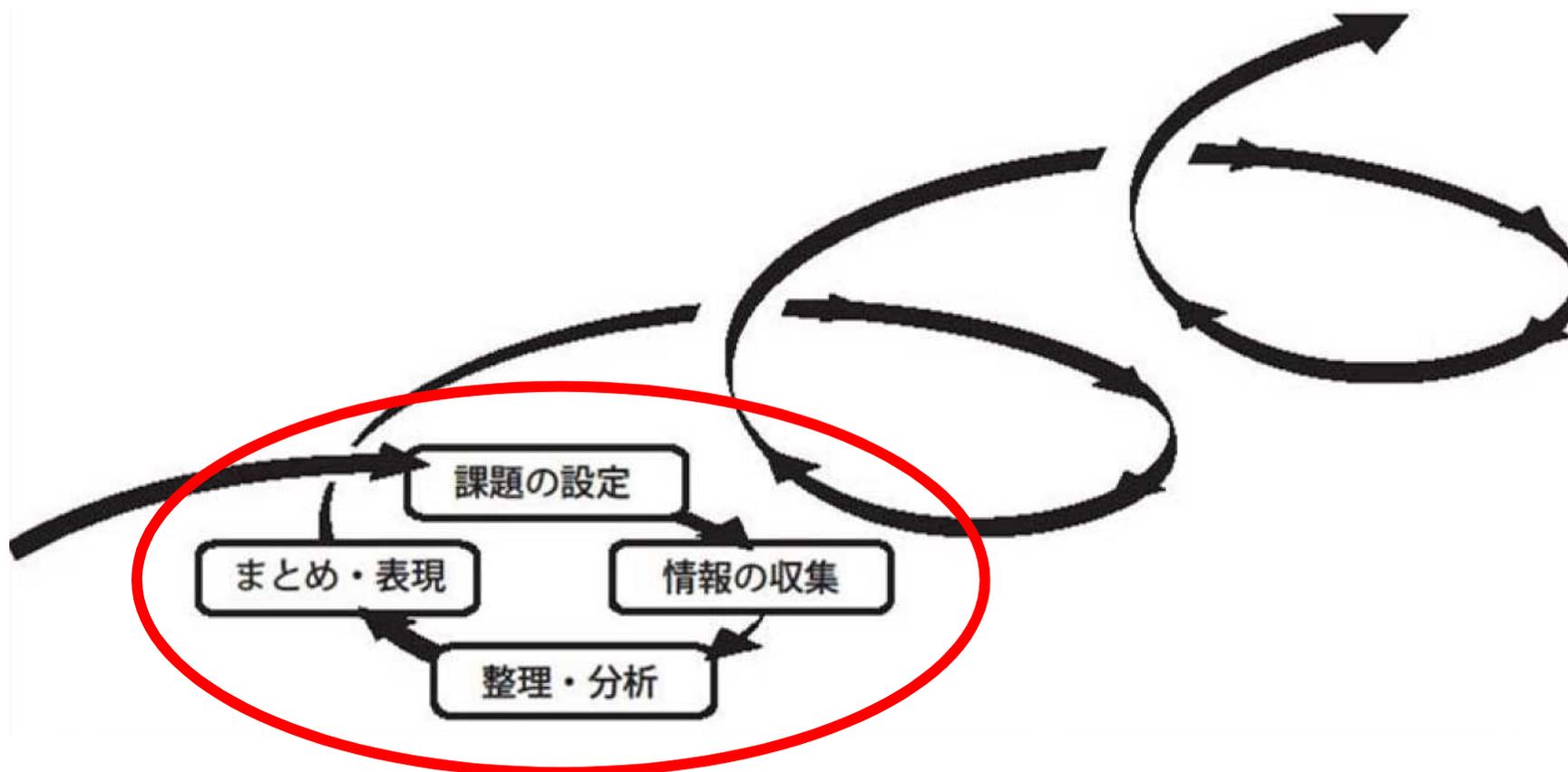
- ・学習方法に関すること
- ・自分自身に関すること
- ・他者や社会とのかかわりに関すること

(* 上記三つの視点は、OECDのキー・コンピテンシーにも符合する)

実社会で活用できる能力(例)



総合的な学習の時間における 探究的な学習における児童・生徒の学習の姿



■ 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される

総合的な学習の時間における 探究のプロセス

読解のプロセス (PISA)	探究のプロセス (総合的な学習の時間)	問題解決のプロセス (PISA)
<ul style="list-style-type: none">○情報へのアクセス・取り出し ○統合・解釈 ○熟考・評価	<ul style="list-style-type: none">①課題の設定: 体験的な活動等を通じて課題意識をもつ②情報の収集: 必要な情報を取り出したり、収集したりする③整理・分析: 収集し、取り出した情報を整理、分析する④まとめ・表現: 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する	<ul style="list-style-type: none">○探究・理解 ○表現・定式化 ○計画・実行 ○観察・熟考

育てようとする資質や能力及び態度の例

視点	小学校	中学校	高等学校	
学習方法に関すること	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ・仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する ・仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する 	
	情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し分析する ・手段を選択し、情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ・必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する 	
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> ・問題状況における事実や関係を把握し理解する ・多様な情報の中にある特徴を見付ける ・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ ・視点を定めて多様な情報を分析する ・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ・視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考察する ・事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える
	省察	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとするなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとするなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する ・学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとするなど
自分自身に関すること	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について責任をもって意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について当事者意識と責任感をもって意思決定する
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に確実に行動する
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の在り方を見直し、実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来を考え、夢や希望をもつなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来を考え、夢や希望をもつなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつなど
他者や社会とのかかわりに関すること	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする
	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め特徴を生かしあい、協同して課題を解決する
	共生	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全を考えて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全について主体的、協同的に行動する
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて地域の活動に参加するなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて社会活動に参画するなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画するなど

学習課題・学習対象・学習事項の例（小学校）①

学習課題	学習対象	学習事項	
① 横断的・ 総合的な 課題	国際	地域に暮らす外国人と その人たちが大切にして いる文化や価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化とそのよさ ・世界の国々の伝統や文化とそのよさ ・異なる文化と交流する活動や取組 など
	情報	情報化の進展とそれに 伴う日常生活や消費行 動の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報手段の機能と特徴 ・情報環境の変化と自分たちの生活とのかかわり ・目的に応じた主体的な情報の選択と発信 など
	環境	身近な自然環境とそこ に起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の存在とそのよさ ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・環境の保全やよりよい環境の創造のための取組 など
	資源エネ ルギー	自分たちの消費生活と 資源やエネルギーの問 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える資源・エネルギー活用の多様さと重要さ ・資源・エネルギー問題と自分たちの生活とのかかわり ・省資源・省エネルギーに向けての取組 など
	福祉	身の回りの高齢者とそ の暮らしを支援する仕 組みや人々	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの高齢者とその暮らし ・地域における福祉の現状と問題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取組 など
	健康	毎日の健康な生活とス トレスのある社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と健康の保持・増進をめぐる問題 ・自分たちの生活習慣と健康とのかかわり ・より健康で安全な生活を創造するための取組 など
	食	食をめぐる問題と地域 の農業や生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業や生産者の現状と日本の食糧問題 ・食の安全や食料確保と自分たちの生活とのかかわり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食生活の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の進歩と自分 たちの暮らしの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩と便利で快適になった暮らし ・科学技術の進歩と私たちの生活とのかかわり ・科学技術をよりよく生活に生かし豊かな生活を創造しようとする取組 など

学習課題・学習対象・学習事項の例（小学校）②

学習課題	学習対象	学習事項
② 児童の興味・関心に基づく課題	キャリア	将来への展望とのかかわりで訪ねてみたい人や機関 <ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く人の存在と働くことの意味 ・地域社会を支える様々な職業や機関 ・自分自身のよさへの気付きと将来展望 など
	ものづくり	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの面白さとそれを生かした生活の豊かさ ・ものづくりによる豊かな社会と暮らしの創造 ・快適で自分らしい生活環境を整える活動 など
	生命	生命現象の神秘、不思議、すばらしさ <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象の神秘や不思議、すばらしさ ・かけがえのない存在としての自分への気付きと自尊心 ・自他の生命を尊重し大切に取る取組 など
③ 地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々がつながり、支え合って暮らすよさ ・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思い ・地域の一員として、町づくりや地域活性化にかかわろうとする活動や取組 など
	伝統文化	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化のもつ特徴 ・地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思い ・地域の一員として、伝統や文化を守り、受け継ごうとする活動や取組 など
	地域経済	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と地域の商店街が抱える問題 ・商店街の再生に向けて努力する人々の思い ・地域の一員として、地域社会の再生にかかわろうとする活動や取組 など
	防災	防災のための安全な町づくりとその取組 <ul style="list-style-type: none"> ・災害の恐ろしさと防災意識の大切さ ・地域や学校で防災に取り組むよさと安全な町づくり、学校づくり ・地域や学校の一員として、災害に備えた安全な町づくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組 など

学習課題・学習対象・学習事項の例（中学校）①

学習課題	学習対象	学習事項	
① 横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化の特徴と日本人としての自覚 ・世界の国々の伝統や文化の特徴 ・異なる文化との共生を目指す活動や取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報手段の機能と特徴 ・情報環境の変化と社会生活とのかかわり ・目的に応じた主体的で責任ある情報の選択と発信 など
	環境	地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然の存在とそのよさ ・環境問題と社会生活とのかかわり ・環境の保全と持続可能な社会の創造のための取組 など
	資源エネルギー	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を支える資源・エネルギー活用とその生産の現状 ・資源・エネルギー問題と社会生活とのかかわり ・省資源・省エネルギーと持続可能な社会の創造のための取組 など
	福祉	地域の高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者とその生活 ・現代社会における福祉の現状と問題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取組 など
	健康	毎日の健康な生活とストレスのある社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と健康の保持・増進をめぐる問題 ・自分たちの生活習慣と健康とのかかわり ・より健康で安全な生活を創造するための取組 など
	食	食をめぐる問題と地域の農業や生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業や生産者の現状と日本及び世界の食糧問題 ・食の安全や食料確保と社会生活とのかかわり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食生活の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の進歩と社会生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩と生活様式や価値観の変化 ・科学技術の進歩と社会生活とのかかわり ・科学技術をよりよく生活に生かし豊かな生活を創造しようとする取組 など

学習課題・学習対象・学習事項の例（中学校）②

学習課題	学習対象	学習事項
② 生徒の興味・関心に基づく課題	ものづくり	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの面白さや工夫とそれを生かした生活の豊かさ ・ものづくりによる豊かな社会の創造と生活の発展 ・快適で自分らしい生活環境を生み出す取組 など
	生命	生命現象の神秘、不思議、すばらしさ <ul style="list-style-type: none"> ・生命現象の神秘や不思議、すばらしさ ・かけがえのない存在としての自己理解と自尊心 ・自他の生命の尊厳を理解し守る取組 など
③ 地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々がつながり、支え合って暮らすことの意義と難しさ ・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思い ・地域の一員として、町づくりや地域活性化にかかわろうとする活動や取組 など
	伝統文化	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化のもつ特徴 ・地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々や社会の仕組み ・地域の一員として、伝統や文化をよりよく継承し発展させていこうとする取組 など
	地域経済	商店街の再生に向けて努力する人々と地域経済 <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と地域の商店街が抱える問題 ・地域経済の活性化に向けて努力する人々とその思い ・地域の一員として、地域社会の再生にかかわろうとする活動や取組 など
	防災	防災のための安全な地域づくりとその取組 <ul style="list-style-type: none"> ・災害の恐ろしさと防災意識の大切さ ・地域や学校で防災に取り組む意義と安全な町づくり、学校づくり ・地域や学校の一員として、災害に備えた安全な町づくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組 など
④ 職業や自己の将来にかかわる課題	職業	職業の選択と社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・職業による自己実現と社会貢献 ・自分自身の夢や適性と職業の選択 ・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 など
	勤労	働くことの意味や働く人の夢や願い <ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く人の存在とその夢や願い ・地域社会を支える様々な職業や機関 ・経済的自立と働くことの意味 など

学習課題・学習対象・学習事項の例（高等学校）①

学習課題	学習対象	学習事項
① 横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観 ・世界の国々の伝統、文化、価値観等の特徴と地球市民としての自覚 ・日本の伝統、文化、価値観等の特徴と日本人としての自覚 ・国際社会の持続可能な発展のための課題と共生に向けた取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う社会経済生活や消費行動の変化 ・情報通信技術の進展による、社会経済や人々の消費行動、コミュニケーションスタイルの変化等に伴う問題状況 ・情報の収集・選択・発信における責任主体としての自覚 ・望ましい情報社会の構築に向けた情報リテラシー など
	環境	自然環境と環境問題 ・自然環境のかけがえのなさとその人類的価値 ・地域の自然環境の調査とそこで見いだされた課題 ・国際関係の中での、環境の保全と社会の経済的発展との構造的課題 など
	資源エネルギー	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題 ・社会を支える資源・エネルギー活用と、その有限性や危険性、経済性との構造的課題 ・資源・エネルギー問題と自分たちの消費意識や行動との関わり ・省資源・省エネルギーと持続可能な社会の構築のための取組 など
	福祉	高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組 ・高齢者の尊厳と自立に向けた支援における日本や諸外国の取組 ・我が町の高齢者福祉の現状と課題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための地域活動への参画 など
	健康	毎日の健康な生活とストレスのある社会 ・健康の意味と人間関係や社会・自然環境との関連 ・社会構造の変化と健康の保持・増進をめぐる問題状況 ・より健康で安全な生活を送るための対策や取組 など
	食	食をめぐる問題と農水産業の流通過程と従事者 ・日本の農水産業やその従事者の現状とグローバル化による変化 ・食の安全保障をめぐる生産や流通の現状と自分たちの食生活との関わり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食環境の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の発展と社会経済生活の変化 ・科学技術の発展に伴う生活様式や価値観、社会構造の変化 ・科学技術の発展がもたらした、私たちの暮らしの中の光と影 ・科学技術の進展と持続可能な社会の構築との共存 など
	地域行政・司法	地域行政や司法への高校生の関わりと民主的な社会 ・模擬裁判の実践を通して考える裁判員制度の在り方 ・国民の選挙への意識と行動の実態 ・地域に暮らす外国人の人権問題改善への取組 など
	経済・消費	グローバル社会における経済不安と消費をめぐる問題 ・グローバル社会における経済格差の現状と私たちの生活 ・私たちの消費行動の変化と近未来の社会 ・持続可能な社会のための「消費者市民社会」「脱消費社会」構築への取組 など
安全・防災	防災のための安全な地域づくりとその取組 ・自然災害による被害の深刻さと広がり ・過去の災害の被害状況とその反省に基づく防災対策 ・地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくりの担い手としての取組 など	

学習課題・学習対象・学習事項の例（高等学校）②

学習課題		学習対象	学習事項
② 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題	郷土	郷土の自然や風土、歴史と文学	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の自然や風土の特徴と歴史的背景 郷土にまつわる文学作品や芸術作品の魅力 郷土への愛着と自然や風土を守ろうとする人々の取組 など
	都市計画	歴史的な景観と利便性が調和した都市計画	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な景観と住む人の利便性が調和した都市の姿 都市の変容とそこで暮らす人々の生活様式や価値観の変化 都市の活性化に向けた再開発への取組 など
	地域社会	まちづくりや地域活性化に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状と地域の特徴 まちづくりや地域活性化への住民の取組 地域の担い手としての自覚や未来のまちづくりに向けた構想 など
	観光	新しい商品の開発による観光の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 地場産業や地域の産業の現状と課題 地域観光活性化のための地元の取組やアピール活動の実際 地域との協同による郷土の特産物を材料とした商品開発の可能性と販売促進への取組 など
	生命・医療	生命の尊厳と医療・看護の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 生命の質や生命倫理等に関わる今日的課題 生殖補助医療や臓器移植等、最先端医療の是非と、治療を受けている人やその家族の思い 自他の生命の尊厳を理解し守るための医療・看護の在り方と個々人の死生観 など
	共生	人の自立と多様な人々との共生	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と自立した生き方 障害やトラブルを乗り越えた人々と周囲の支え ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーションの考え方と共生社会に向けた取組 など
	教育・保育	社会の変容と教育・保育の転換	<ul style="list-style-type: none"> 成熟社会における教育の在り方とその転換 自分たちの受けてきた教育の歴史的な位置付けや外国の現状 これからの社会に応じた教育や子育ての在り方への模索と取組 など

学習課題・学習対象・学習事項の例（高等学校）③

学習課題	学習対象	学習事項
③自己の在り方生き方や進路にかかわる課題	人生観	物質的な豊かさと精神的な豊かさを巡る問題 ・「豊かさ観」の画一化がもたらす諸問題 ・自分たちの「豊かさ観」と異世代や諸外国の若者の「豊かさ観」との相違点とその要因など ・様々な年代による「人生観」とその違い
	社会奉仕	ボランティア活動とそれに取り組む人々 ・ボランティアの考え方とその形成過程及び背景 ・ボランティア活動に取り組む人々の思いや願い ・ボランティア活動に対する社会的評価と活動を支援する社会的制度整備
	文化の創造	文化や流行の創造と表現 ・社会や時代の変化と流行の変遷との関連 ・流行や文化に対する自分たちの意識や行動の調査 ・社会への帰属意識と自己・個性の表現との対比
	職業	職業の選択と社会への貢献及び自己実現 ・社会貢献や自己実現のための職業選択への模索と取組 ・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 ・様々な仕事の関連性と課題
	勤労	働くことの意味や働く人の夢や願い、社会的責任 ・現代社会を作り、支える様々な職業や機関の機能や意義と課題 ・様々な勤労者の夢や思い ・経済的自立と働くことの意味と責任
	アイデンティティ	世界の中の日本・日本の中の地域・家族の中の自分等におけるアイデンティティ ・世界の中の日本の役割と課題、近未来のプランニング ・世界に誇れる日本人や日本文化 ・家族の中の自分、クラスの中の自分、アイデンティティに関わる思い

総合的な学習の時間の実施状況（小学校）

小学校における総合的な学習の時間の学習活動（平成25年度計画）

（複数回答）

学習活動 学年	横断的・総合的な課題	児童の興味・関心に基づく課題	地域や学校の特色に応じた課題	その他
第3学年	71.7%	57.0%	93.3%	7.0%
第4学年	79.1%	59.4%	82.5%	9.0%
第5学年	81.2%	60.6%	82.1%	8.5%
第6学年	81.1%	67.1%	78.3%	11.5%
※実施学校	88.3%	74.4%	96.7%	14.7%

小学校における総合的な学習の時間の具体的な学習内容（平成25年度計画）

（複数回答）

学習内容 学年	国際理解	情報	環境	福祉・健康	地域の人々の暮らし	伝統と文化	防災	その他
第3学年	37.8%	51.3%	45.7%	36.9%	80.6%	49.0%	11.2%	15.2%
第4学年	37.6%	51.7%	66.0%	60.3%	53.1%	34.7%	16.9%	22.3%
第5学年	28.6%	57.1%	65.3%	40.9%	52.5%	42.0%	14.3%	24.8%
第6学年	43.6%	58.3%	35.4%	38.7%	47.2%	60.8%	14.3%	35.3%
※実施学校	65.8%	67.8%	89.9%	84.4%	89.5%	80.7%	26.5%	42.7%

総合的な学習の時間の実施状況（中学校）

中学校における総合的な学習の時間の学習活動（平成25年度計画）

（複数回答）

学習活動 学年	横断的・総合的な課題	生徒の興味・関心に基づく課題	地域や学校の特色に応じた課題	職業や自己の将来	その他
第1学年	55.1%	42.5%	74.2%	71.1%	8.6%
第2学年	53.5%	44.2%	60.6%	92.2%	8.5%
第3学年	56.9%	48.8%	57.8%	86.4%	8.5%
※実施学校	63.2%	55.5%	79.9%	96.3%	11.0%

中学校における総合的な学習の時間の具体的な学習内容（平成25年度計画）

（複数回答）

学習内容 学年	国際理解	情報	環境	福祉・健康	伝統と文化	防災	まちづくり	キャリア	その他
第1学年	16.1%	28.8%	44.0%	42.0%	50.0%	23.1%	18.6%	69.7%	16.8%
第2学年	17.6%	28.7%	30.9%	34.1%	47.1%	21.9%	13.4%	92.1%	17.9%
第3学年	25.6%	29.8%	29.5%	39.4%	51.2%	22.1%	20.0%	83.2%	18.4%
※実施学校	33.1%	37.2%	53.1%	61.4%	69.9%	27.9%	26.6%	94.9%	22.7%

総合的な学習の時間の実施状況（高等学校）

学年別の実施状況

（平成25年度入学者）

		全年次 で実施	1・2年 次で実 施	2・3年 次で実 施	1・3年 次で実 施	1年次 のみで 実施	2年次 のみで 実施	3年次 のみで 実施	小計	特例等
全日制	普通科	83.9%	4.6%	5.2%	3.4%	0.2%	0.0%	0.7%	98.0%	2.0%
	専門学科	14.2%	1.3%	1.5%	0.9%	0.2%	0.2%	2.2%	20.4%	79.6%
	総合学科	18.5%	0.7%	74.7%	2.0%	0.0%	0.7%	3.0%	99.7%	0.3%

注1 全日制課程における総合的な学習の時間の実施状況について、学科ごとの割合を示している。

注2 平成25年度入学者に適用される3年間の教育課程について記入している。

注3 研究開発学校やスーパーサイエンスハイスクールなど教育課程の特例を認められており、総合的な学習の時間を実施していない場合及び専門学科において課題研究等で全部代替している場合は、「特例等」に計上している。
（(2)についても同様。）

総合的な学習の時間の単位数の設定状況

（平成25年度入学者）

		2単位	3単位	4単位	5単位	6単位 以上	小計	特例等
全日制	普通科	4.4%	91.2%	1.1%	0.4%	0.8%	98.0%	2.0%
	専門学科	1.3%	18.2%	0.8%	0.1%	0.1%	20.4%	79.6%
	総合学科	2.7%	88.9%	6.7%	1.3%	0.0%	99.7%	0.3%

学習指導要領上の規定
標準単位数 **3～6**
（特に必要がある場合には2単位
とすることも可）

総合的な学習の時間の実施状況（高等学校）

学年別の実施内容

（平成25年度入学者）

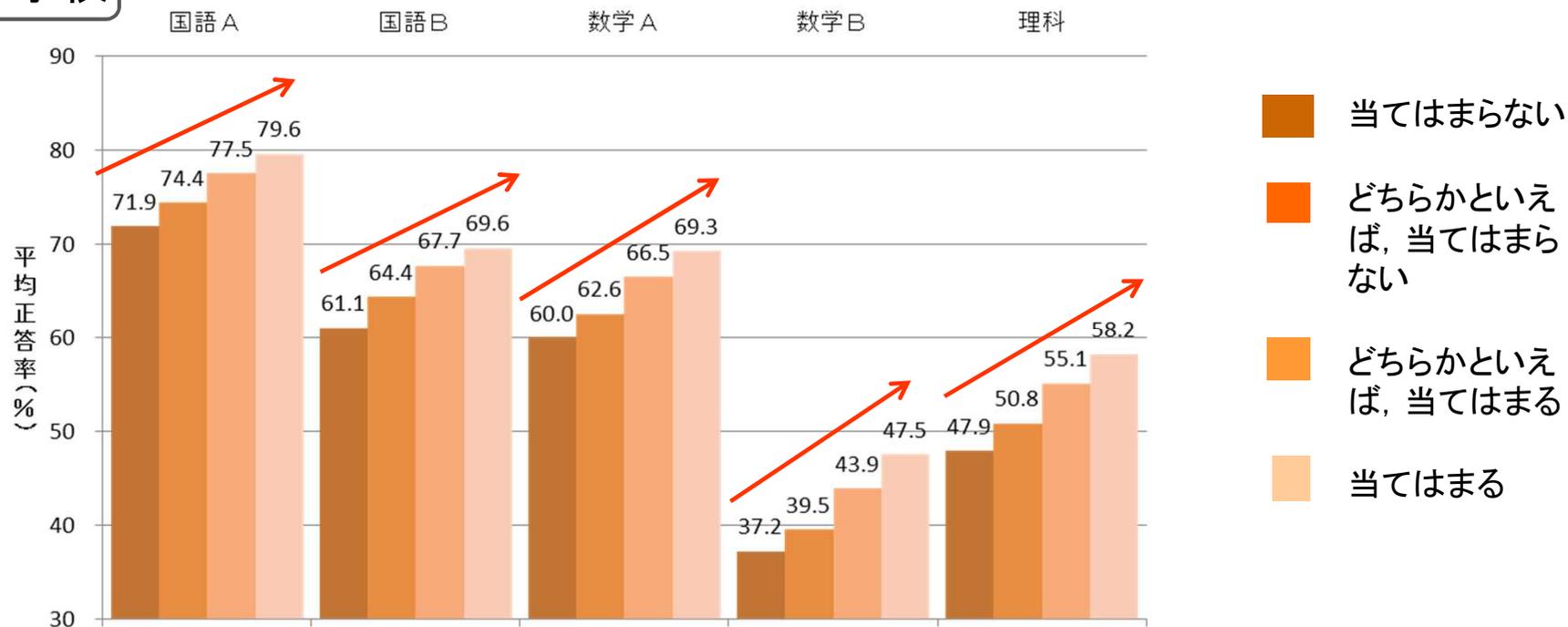
（複数回答）

学年		学習内容	国際理解	情報	環境	福祉・健康	伝統と文化	防災	まちづくり	キャリア	その他
全日制	普通科	1年	28.0%	24.2%	32.1%	36.5%	29.8%	20.1%	11.2%	77.8%	17.4%
		2年	32.3%	23.3%	30.6%	31.0%	36.1%	17.8%	8.7%	80.7%	17.0%
		3年	25.1%	22.0%	24.8%	29.3%	22.8%	16.8%	6.4%	80.2%	15.2%
		※実施 学科数	44.2%	34.8%	43.9%	46.7%	48.3%	23.8%	14.9%	90.0%	24.1%
	専門学科	1年	24.2%	19.7%	21.9%	24.7%	18.9%	12.8%	6.9%	66.6%	17.1%
		2年	26.6%	19.1%	21.5%	24.8%	23.5%	12.9%	6.9%	67.8%	17.3%
		3年	20.5%	19.7%	19.6%	25.1%	15.3%	11.9%	8.2%	66.4%	22.0%
		※実施 学科数	36.1%	30.7%	33.1%	35.0%	32.2%	17.3%	12.0%	81.5%	32.0%
	総合学科	1年	5.1%	4.4%	7.1%	9.1%	5.7%	5.1%	1.3%	14.5%	7.7%
		2年	29.4%	26.0%	29.4%	30.7%	37.5%	15.9%	12.2%	81.4%	20.9%
		3年	38.5%	42.6%	36.8%	46.3%	38.9%	18.2%	17.6%	66.9%	33.4%
		※実施 学科数	46.6%	47.6%	46.6%	55.1%	52.0%	22.3%	21.3%	85.8%	39.2%

全国学力・学習状況調査の結果から①

生徒質問紙：「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

中学校



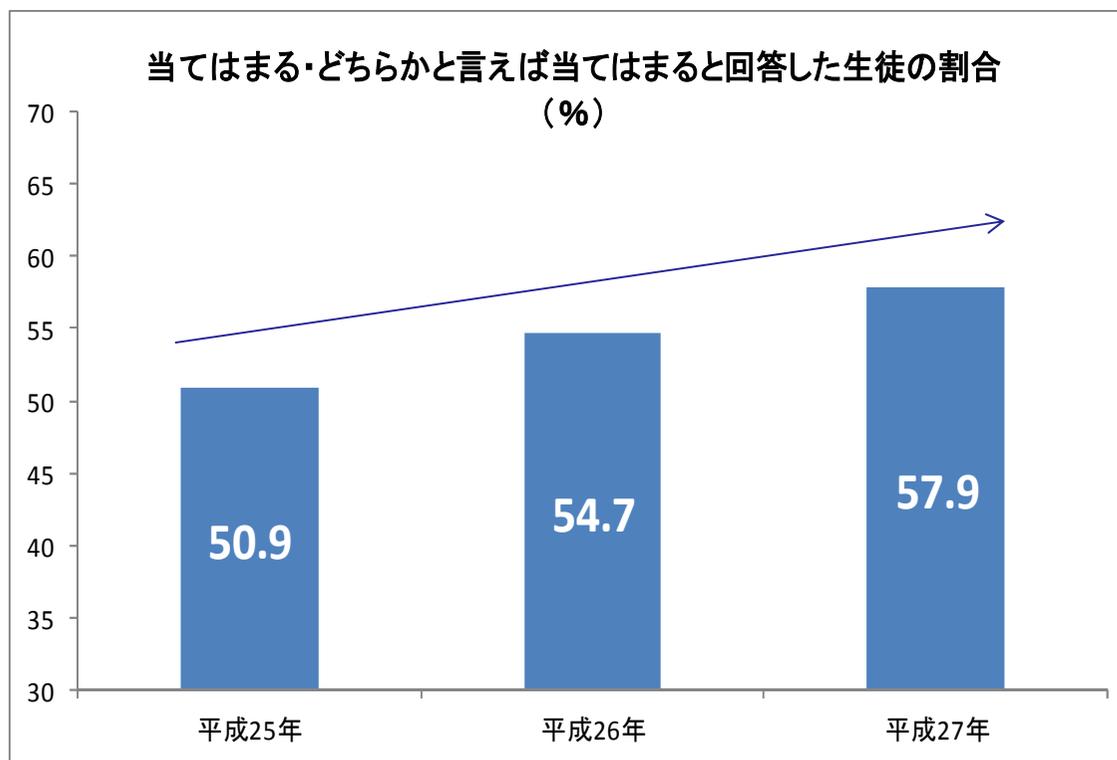
総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒ほど各教科の正答率が高い。

※小学校においても同様の結果。

全国学力・学習状況調査の結果から②

生徒質問紙：「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

中学校



総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒の割合が増えている。

※小学校においても同様の結果。

総合的な学習の時間の教育効果に関する研究例

(日本生活科・総合的学習教育学会調査結果①(小学校))

■ **調査目的** 総合的な学習の時間による学習を通して育った児童の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■ **調査時期** 平成26年2月～3月

■ **調査対象と回答数** 学校数38校、児童数2571名、教員数96名

全国5地域(東北、関東、中部、中国、九州の5市)の学校から、総合的な学習の時間の「先進校」「一般校」をそれぞれ3校程度抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。上記とは別に、総合的な学習の時間の趣旨に沿った実践を長年実施し、全国的に高い評価を得ている学校を「トップ校」として12校抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。

■ **調査結果** 総合的な学習の時間の「トップ校」、「先進校」、「一般校」の間で有意に差が認められた能力は以下の能力であり、それは、探究的・協同的な学習活動など総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習活動を展開することによって形成されることが明らかになった。

ア) 質の高い思考力、情報活用能力(設問9など)

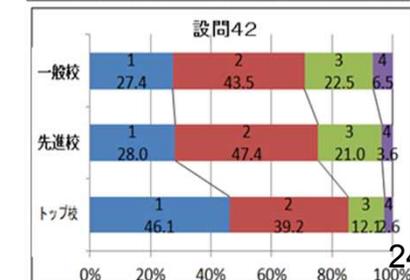
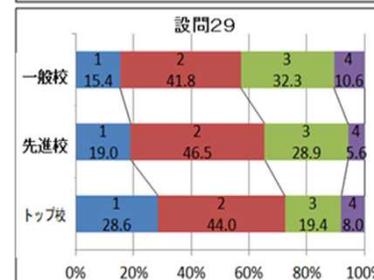
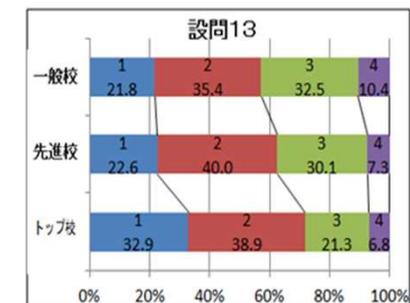
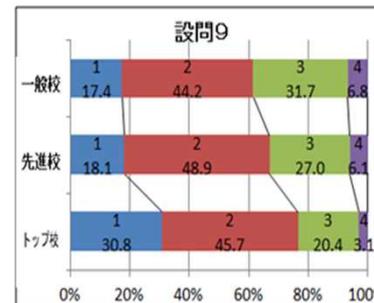
イ) 協同的な問題解決能力(設問13など)

ウ) 地域社会へ貢献しようとする意識(設問29など)

エ) 新しい社会的課題へ挑戦しようとする意欲

(設問42など)

また、トップ校の調査からは、学力・学習状況調査の結果についても、総合的な学習の時間の充実とともに向上してきたことが認められた。



総合的な学習の時間の教育効果に関する研究例

(日本生活科・総合的学習教育学会調査結果②中学校・高校)

■調査目的 総合的な学習の時間による学習を通して育った生徒の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■調査時期 平成26年2月～3月

■調査対象と回答数 中学校数11校、中学校生徒数1178名、中学校教員数58名
高等学校数10校、高等学校生徒数1539名、高等学校教員数98名

全国の総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習を行っている中学校及び高等学校から抽出した学校は各学校の総合的な学習の時間の終了学年とした。

■調査結果

全体を通して、充実した総合的な学習を経験した中学校・高等学校の生徒は、自らの将来展望をしっかりと描き、他者の異なる考え方を受け入れ、課題解決に向けて協同しようとする態度が身に付いてきていることが伺える。

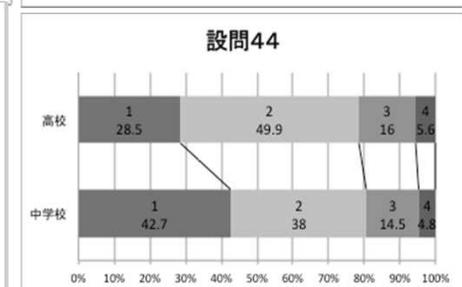
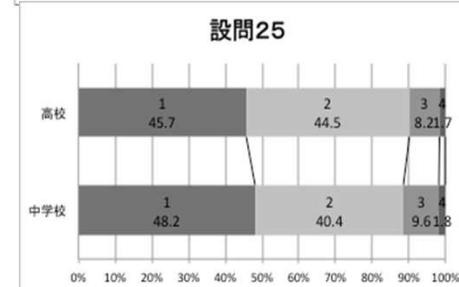
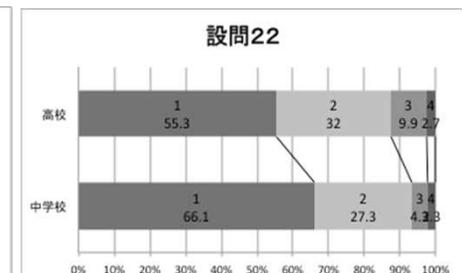
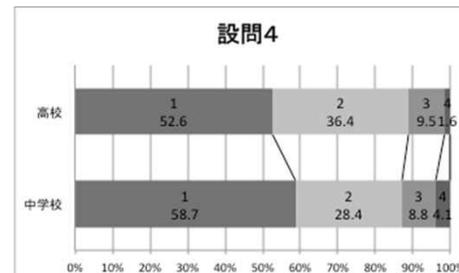
○設問4 「解決したいことを、書籍やインターネット等を使って調べることができる。」

○設問22 「自分の将来について考えることがある。」

○設問25 「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。」

○設問44 「総合的な学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。」

など



OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の結果 —平均得点及び順位の推移—

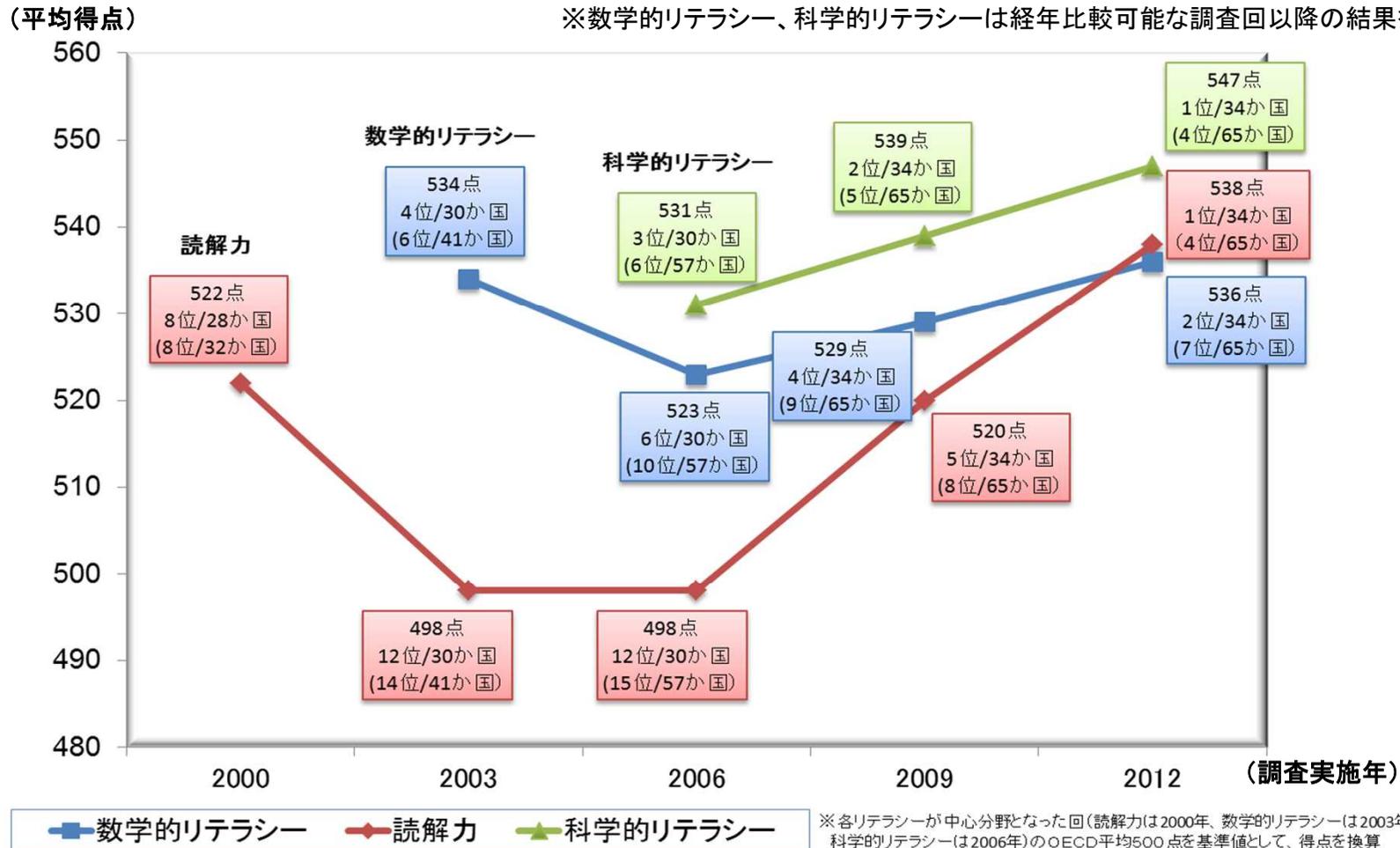
◆ 数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて、平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっている。

平均得点及び順位の推移

※PISA調査: OECDが15歳児(我が国では高校1年生)を対象に実施

※順位はOECD加盟国中(カッコ内は全参加国・地域中の順位)

※数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2012）のポイント」

OECD PISA調査の結果と総合的な学習の時間

PISA2012調査報告書(PISA2012 Results:Creative Problem Solving – Students’ Skills in Tracking Real-Life Problems-)より

…日本はPISA2012調査において全ての教科でトップかトップに近い成績を収めているが、問題解決についても例外ではない。…この問題解決のスキルの育成は、教科と総合的な学習の両方において、クロスカリキュラムによる生徒主体の活動に生徒が参加することによって行われているものである。…カリキュラムと授業をより子供の関心を引く学習に変えようとする日本の継続的な取組は、PISAの良い成績を生み出しただけでなく、2003年から2012年にかけての生徒の学校への帰属意識や学習の姿勢の顕著な改善という結果を生み出している。

OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事(H26.7.2読売新聞、服部真記者)

…学力の回復は総合学習の貢献が大きい。

「中等教育資料」平成26年5月号 OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏寄稿

…日本では、以前から総合学習が行われています。日本の全国学力・学習状況調査によれば、総合学習が子供たちの意欲関心の向上に役立っているなど総合学習の様々な成果がみられたと聞いています。このような子供の自主的な活動に着目した学習の今後の発展を楽しみにしています。

総合的な学習の時間に関する認識

- 総合的な学習の時間を削減すべきと考える保護者の数は5年間で半減。
半数以上の保護者は、総合的な学習の時間を削減すべきでないと考えている。
- 「受験に役立つ学力」を教育に期待する保護者よりも、「主体的に行動する力」「課題を発見する力」「物事を多面的に考える力」に期待する保護者の割合が高い。

■学校教育に対する保護者の意識調査

(朝日新聞・ベネッセ教育研究開発センター、2013.3. 28)

Q「総合的な学習の時間の削減」(平成20年調査→平成24年調査)

- ・「削減に賛成」「どちらかといえば賛成」:48.0%→**23.8%**
- ・「削減に反対」「どちらかといえば反対」:36.8%→**51.8%**

Q「どのような学力を期待するか」

- ・課題を発見する力:86.2%
- ・論理的に考える力:84.1%
- ・物事を多面的に考える力:87.9%
- ・主体的に行動する力:88.8%
- ・受験に役立つ学力:67.4%

総合的な学習の事例について

■総合的な学習の時間の取組の分類・整理(案)

①学際的な内容を取り扱った探究的な学習

実践例：P30～34

②実社会・実生活の問題を取り扱った探究的な学習

実践例：P35～39

③学びを鳥観し、思考ツール等の活用を通じた探究的な学習

実践例：P40～43

京都市立堀川高等学校①

学校の教育目標

- (1) 校訓「立志・勉勵・自主・友愛」の精神を教育活動において具体化するべく努める。
- (2) 人類の幸福と社会の進歩に貢献する力と、将来の目標と展望を明確に示す力を備えた、指導力ある人材の育成を目指す。
- (3) 変化と多様化の時代の中で、主体的に生きる個の確立を促し、未来を切りひらくたくましい創造力と、豊かな人間性を育む教育の展開を図る。

学校において定める「総合的な学習の時間」の目標

探究的な活動を通して、自ら問題を発見し、よりよく解決するための資質や能力を育成する。また、事実の記述や他者の主張を多面的・批判的に検討し、根拠や理由から論理的に答えを導くといった学び方・考え方の基礎を身に付け、経験や考え方が異なる他者との対話を重視する態度を育て、身につけた資質・能力を自己の在り方生き方に生かしていけるようにする。

京都市立堀川高等学校②

「総合的な学習の時間」において育てようとする資質や能力及び態度

1. 問題を発見し、解決するための技能を修得させる。

- (ア)「漠然とした問い」を「答えが導ける問い」にする方法を学ばせる。
- (イ)様々な方法で問題解決の糸口を探る方法を学ばせる。

2. 事実の記述や主張を多面的・批判的に検討できるようにさせる。

- (ア)事実に基づいた情報の見方と、それを受けとる方法を学ばせる。
- (イ)意見と事実を区別して考える重要性を学ばせる。

3. 根拠や理由から答えを導くための論理性を学ばせる。

- (ア)論理的な主張の組み立て方を学ばせる。
- (イ)具体的な根拠を提示して主張する重要性を学ばせる。

4. 対話の有効性に気づかせる。

- (ア)文章や議論、発表などを通じて自分の主張を相手に効果的に表現する方法を学ばせる。
- (イ)相互評価・議論・質問によって互いの主張の説得力を高める方法を学ばせる。
- (ウ)経験や考え方が異なるといった背景を超えて意思疎通を図ろうとする態度を身につけさせる。

5. 自分自身が経験したことや身につけた力を振り返り、自覚できるようにさせる。

- (ア)現状と目標との違いを客観的に認識しようとする態度を身につけさせる。
- (イ)具体的な活動や経験から、今後にかかすことのできる指針を導きだそうとする態度を身につけさせる。

「総合的な学習の時間」において扱う内容

実際の研究分野における手法(実験・観察・調査計画の立て方、結果の分析方法、テキストの解釈の方法、議論の仕方など)を学ぶことを通して、総合的な学習の時間の目標を達成する。

京都市立堀川高等学校③

「探究基礎(堀川高校における呼称)」のあらまし

学年・学期(別称)		1年前期(HOP)	1年後期(STEP)	2年前期(JUMP)
科目名	普通科	社会と情報** (2単位のうち、前期2時間:1単位分)	探究基礎 I *** (後期2時間分)	探究基礎 II *** (前期2時間分)
	探究学科群*	探究基礎 I α** (2単位のうち、前期2時間:1単位分)	探究基礎 I β*** (後期2時間分)	
位置づけと目標		探究の「型」を学ぶ＝ 探究の具体的方法を学ぶ前に、どの分野を探究する上でも必要な探究の進め方や、表現の仕方を学ぶ	探究の「術(すべ)」を身につける＝ 学問分野ごとに整備されている具体的な調査技法(実験・フィールドワーク・資料の見方など)を学ぶ	探究の「道」を知る＝ 実際に探究活動をすすめることで、普遍的な探究能力を高める。
授業の形式 (同一時間帯に2クラスが授業)		2クラス同時進行 あるいは、クラスの半数×4講座同時進行	少人数講座(ゼミ)での授業 ゼミ生徒数10名程度 普通科8講座、探究学科群9講座	少人数講座(ゼミ)での授業 ゼミ生徒数10名程度 普通科8講座、探究学科群9講座

「探究基礎」における少人数講座(ゼミ)の内容

○普通科

言語・文学、人文科学、国際文化、社会科学、数学・情報、生物学・化学、物理・地学、スポーツ・生活科学

○人間探究科、自然探究科

言語・文学、人文科学、国際文化、物理、化学、生物学、地学、数学、情報科学

(論文の例: 言語・文化…「見づらい」と「見にくい」の共存意義、国際文化…文字の共通イメージとオノマトペの数 など)

京都市立堀川高等学校④

年間指導計画

学科・類・類型等		普通科・探究学科群		学年	1年	単位数	2単位
月	単元 (学習活動)	学習のねらい	主な活動内容(複数記載可)			各教科及び特別活動、人間としての在り方生き方に関する教育などとの関連	
4	探究とは何か	探究活動の概要を知る	・(宿泊研修)今後取り組んでいく探究活動の目標・概要を、実習を交えながら学ぶ			(HR)議論の仕方 (情報)情報の多面性の理解 (全教科)実際の探究活動にも教科の学習内容が関連することを踏まえる	
5							
6	探究とは何か		・(探究講演会)研究者の講演を聞き、実際に行われている探究活動がどのようなものかを知る			(HR)講演の聴き方	
7	探究活動の すすめ方	探究活動のすすめる上で必要になる対話の方法や考え方を学ぶ	・(夏季休業中)話の聞き方などに関する実習を行う ・(夏季休業中)先輩たちの行った探究活動について学ぶ			(HR)議論の仕方	
8							
9	探究の実際 を知る	実際に行われた探究活動の進め方を知る	・(探究講演会)研究者の講演を聞き、実際に行われている探究活動の進め方の例を知る ・(探究基礎研究発表会)先輩のすすめた探究活動について議論する			(全教科)実際の探究活動にも教科の学習内容が関連することを踏まえる (HR)講演の聴き方	
10	探究の手法と 考え方 1	・問題解決のための多様な方法を身につける ・論理的な主張の方法と現実・事実に基づいた情報の見方を学ぶ	・教科が担当する少人数講座にわかれ、情報収集・実験・実習を行う			(全教科)教科に固有な調査手法	
11			・情報収集・実験・実習を通して、仮説の検証のために必要となる情報が何かを考え、その情報を得るための調査法を考える ・情報収集・実験・実習をもとにしたレポートを作成する ・輪読会や文献講読を行い、議論することで、多様な見方をさせる			(図書館)書籍による情報の収集について	
12			情報収集の 実際	探究活動に必要な情報の収集法について学ぶ	・(探究講演会)研究者の講演を聞き、実際に行われている探究活動の進め方の例を知る ・(冬季休業中)課題解決に向けた計画と情報収集の方法を議論する		
1	探究の手法と 考え方 2	・問題解決のための多様な方法を身につける ・論理的な主張の方法と現実・事実に基づいた情報の見方を学ぶ	・情報収集・実験・実習を通して、事実がどのようなになっているかを調査する			(全教科)教科に固有な調査手法	
2			・情報収集・実験・実習を通して、仮説の検証のために必要となる情報が何かを考え、その情報を得るための調査法を考える ・情報収集・実験・実習をもとにしたレポートを作成する ・輪読会や文献講読を行い、議論することで、多様な見方をする			(図書館)書籍による情報の収集について	
3	情報収集の 実践	具体化した計画や問題意識に基づき、課題解決の困難さを学ぶ	・(海外研修中の探究活動)現地地で情報収集を行うとともに、それらを具体的に記録する方法を体験する			(特別活動)海外研修中の取組	

京都市立堀川高等学校⑤

年間指導計画

学科・類・類型等		普通科・人間探究科・自然探究科		学年	2年	単位数	2単位
月	単元 (学習活動)	学習のねらい	主な活動内容(複数記載可)			各教科及び特別活動、人間としての在り方生き方に関する教育などとの関連	
4 5	探究活動の 実践 1	・探究活動のプロセスを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画をたてる ・問題解決に向けた調査活動を行う 			(全教科)教科に固有な調査手法 (全教科)基本となる知識・技能の活用	
6	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することは、その準備を含めて、自分自身の理解につながることを学ぶ ・自分自身の取組・成長を客観的に見る重要性を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会で進捗状況と研究の途中成果を発表する ・発表内容に対して議論する ・目標に対して活動がどこまで進んでいるかを自己評価・相互評価する 			(全教科)教科に固有な調査手法 (全教科)基本となる知識・技能の活用	
	探究活動の 実践 2	探究活動のプロセスを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向けた調査活動を行う 				
7	探究の意義を 考える	実際に行われた探究活動の目的を知り、探究活動の社会的な意義付けについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・(探究講演会)研究者の講演を聞き、実際に行われている探究活動の進め方の例を知る 			(全教科)教科に固有な調査手法 (全教科)基本となる知識・技能の活用	
	探究活動の 実践 3	探究活動のプロセスを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・(夏季休業中)改めて調査報告に必要な情報をチェックし、必要があれば収集する。 				
8	活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することは、その準備を含めて、自分自身の理解につながることを学ぶ ・自分自身の取組・成長を客観的に見る重要性を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(夏季休業中)ポスター形式の発表の準備をする。 ・探究の成果を論文にまとめる 				
9		発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの会を実施し、お互いの成長・経験を言語化し共有する ・(探究基礎研究発表会)自分の研究発表を行い、そこで出た意見を論文に反映する。 				
10	探究の意義を 考える	実際に行われた探究活動の目的を知り、探究活動の社会的な意義付けについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・(探究講演会)研究者の講演を聞き、実際に行われている探究活動の進め方の例を知る 				
11	探究で学んだ ことを様々な 場面で実践す る。	<ul style="list-style-type: none"> ・探究で身につけた考え方や手法は様々な局面で生かせることを体験的に知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(探究講演会・冬季休業中・春季休業中)キャリアや人権関連などのテーマで探究活動を行う。 				
12							
1							
2							
3							

山梨県立塩山高等学校①

学校教育目標

- (1) 真理を探究し、理想の実現に努める。
- (2) 自主協調の精神を養い、知性を高める
- (3) 豊かな創造力と健やかな心身を育てる。
- (4) 進取の気風を培い、自己の可能性を開拓する。

学校において定める「総合的な学習の時間」で育てたい生徒像と目標

社会性・主体性・課題解決能力・表現力を備えた生徒

- (1) 社会に対する認識を深め、自ら課題を見付け、その課題を解決する能力を育てる。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、自己の考え・意見を発信する力を育てる。
- (3) 主体的・創造的・協働的に取り組む態度を育てる。
- (4) 自己の在り方生き方について考察し、進路実現への展望を持たせる。

山梨県塩山高等学校②

「総合的な学習の時間」において育てようとする資質や能力及び態度、評価規準

1. 課題設定の能力・課題解決の能力

- 自ら課題を設定し、解決しようとする姿勢を身に付ける。
- 社会的な事柄に目を向け、自己と社会との関わりを認識することができたか。
- 他者と協力して取り組むことができたか。

2. 発表の能力

- 自分の考えを的確にまとめ、表現・発表することができたか。

3. 学習活動への関心・意欲・態度

- 主体的に学ぶ姿勢をもち、意欲的に取り組むことができたか。
- 責任をもって取り組むことができたか。

「総合的な学習の時間」で扱うテーマ

○全体テーマ:「社会に生きる」

○学年テーマ 1学年「社会を知る:地域社会への理解を深め、自己の進路を考察する」

- ・地域社会を知る探究活動
- ・職業を知る探究活動

2学年「社会の仕組みを学ぶ:社会と関わり、自分の考えを発信する」

- ・社会と関わる探究活動
- ・世界を知る探究活動

3学年「社会の中で生きる:社会の課題を見付け、主体的創造的に探究する」

- ・各講座での探究活動(例:「子供」「地域」「福祉」「生命」「労働」など)

山梨県立塩山高等学校③

学習活動

1学年 ～社会を知る～

■地域社会を知る探究活動

～新聞を活用した活動、博物館研修～

地域社会に関心や問題意識をもち、地域への理解を深めるため、新聞を使った活動や、博物館を訪問する活動を通し、探究の仕方を体験する。博物館研修では、事前に地域の文化財や日本の文化について学習した上で、県立博物館・美術館・文学館を訪れ、各自が興味をもったテーマに基づき見学に臨むとともに、体験活動を行った。事後には見学地で情報収集した内容をまとめ、クラスで発表した。

■職業を知る探究活動

「働く」ということの現実が意識できるよう、生徒たちに年齢の近い卒業生の社会人を招き、職業別に分かれて話を聞く。先輩たちが生き生きと自分の仕事や高校時代にやっておくべきことなどについて語る姿は、生徒たちにとって現在と将来をつなぐ道標となったと思われる。その後、興味をもった職業について調べるとともに、各種上級学校や企業の見学を行った。また、それらの情報をベースに、様々な職業についてグループで情報を収集してまとめ、ポスターセッション形式で発表した。「労働」という接点で社会と関わる自分をイメージし、数年後の自分を目標に現在の自己の在り方や課題、その解決策を自ら考え、よりよく生きるために主体的に判断し行動する態度を培う契機になったと言える。

2学年 ～社会の仕組みを学ぶ～

■社会と関わる探究活動

～インタビュー実践～

インタビューにより、積極的に社会と関わるためのコミュニケーション力と、自ら疑問を持ち明らかにしていく主体的な態度を育てることさらに、取材内容を的確にまとめ、自分の考えを周囲に発信することを目指した。

事前に、インタビュー方法についての学習、コミュニケーショントレーニング、訪問先についての調査を行った上で、疑問点を出し合い実践に臨んだ。生徒は、市内の商店、農園、ワイン工場、温泉旅館等を訪ねてのグループでのインタビューや、本校に招いた大学や専門学校職員へのインタビューを行い、取材した内容を紹介マップや新聞形式でまとめ、発表を行った。

商業科の生徒は、専門科目の学習を踏まえた上で、日本銀行甲府支店と山梨県地場産業センター「かいてらす」を訪れ、日本の経済の仕組みや、山梨の産業についてグループでインタビューを行い、集めた情報を新聞形式にまとめた。普通科、商業科とも、各クラス内で発表を行った後、学年発表会を行った。

インタビュー実践を通し、地元の食堂で取材をしたグループは、「地産地消による地域活性の営業を知ることができた。」また、日銀で取材をしたグループは「インタビューを通して期待以上の答えが返ってきてとても勉強になった。」など、他者に働きかけることの大切さを実感した様子が見られた。

3学年 ～社会の中で生きる～

■分野別講座における探究活動

～主体的に社会、地域と関わる～

「社会の中で生きる」をテーマに教科を横断し、生徒の関心や進路に即し講座制による探究活動を行っている。1、2年生で習得した情報の収集、整理・まとめの方法、発表の技術を活用し、現代の社会や地域の課題を自ら設定し、調査し、解決策をまとめ、発表した。

以下、「地域」の講座の探究活動の実践を2例紹介する。

この講座では「山梨の観光とおもてなし」という共通のテーマのもと、県の観光課職員から山梨の観光についての現状の説明を受けた後、グループごとに、ブレインストーミングやKJ法で課題を抽出し、グループのテーマを設定した。

消防士や警察官などの公務員を目指す男子5人のグループは、「自然災害時の観光客の安全対策」、理科系の大学・専門学校を目指す男子4人は「甲州ワインを日本に広める」というテーマを設定し、課題解決に向けて取り組んだ。

最終的に県庁に赴き、県の観光部や教育委員会、また甲州市の観光課職員に提案をプレゼンテーションした。

○「自然災害時の観光客の安全対策」

○「甲州ワインを世界に広める」

総合的な学習の時間における取組事例(高等学校)

○実生活、実社会の課題解決に関する学習に取り組んでいる例

学校名	取組例
秋田県立秋田商業高等学校	総合的な学習の時間の中でオリジナル商品の開発を行っている。毎年11月にA市商工部と協力し、店舗を構え開発した商品を販売。毎年3,000人余りが来場。一昨年には、他校と協力し、コンビニ4社とパン製造企業に新たな商品を提案。連携先のコンビニで2週間限定で販売し、東北地区の販売数ナンバー1の商品となった。
新潟県立佐渡中等教育学校	6年間の中で、確かな学力の定着とともに、地域の魅力に気付かせ、地域の抱えている課題を考えさせたいと、教育目標に「〇〇の歴史と文化に誇りをもち、豊かな人間性と知性を身につけ、世界的視野で活躍できる人材の育成」を掲げる。「〇〇学」(総合的な学習の時間を活用)として地域に出かけていき、地域の課題を探しだし、その解決に向けた活動を生徒自身が考え行っている。
静岡県富士市立高等学校	C市や社会に貢献できる人材の輩出を目指し、総合的な学習の時間を構成。2年次には市役所から正式に辞令を受け高校生職員として、地域の課題について考え、その解決策を検討して市に提案している。市役所担当者も高校生の提案を受け入れる場面もあり、高校生は地域の一員としての自覚を確かにしている。
高知県立大方高等学校	地域が学校運営に参画するコミュニティ・スクールに指定。「自律創造型地域課題解決学習」(総合的な学習の時間を活用)として、地域から示された課題の解決策を地域とともに案出し、実際に実践。E町の特産品の開発、観光マップの作成、イベントの開催など、地域資源を生かしたアイデアが生まれ、高校が地域の活性化の拠点となっている。

総合的な学習の時間の取組事例 (A小学校)

■A小学校

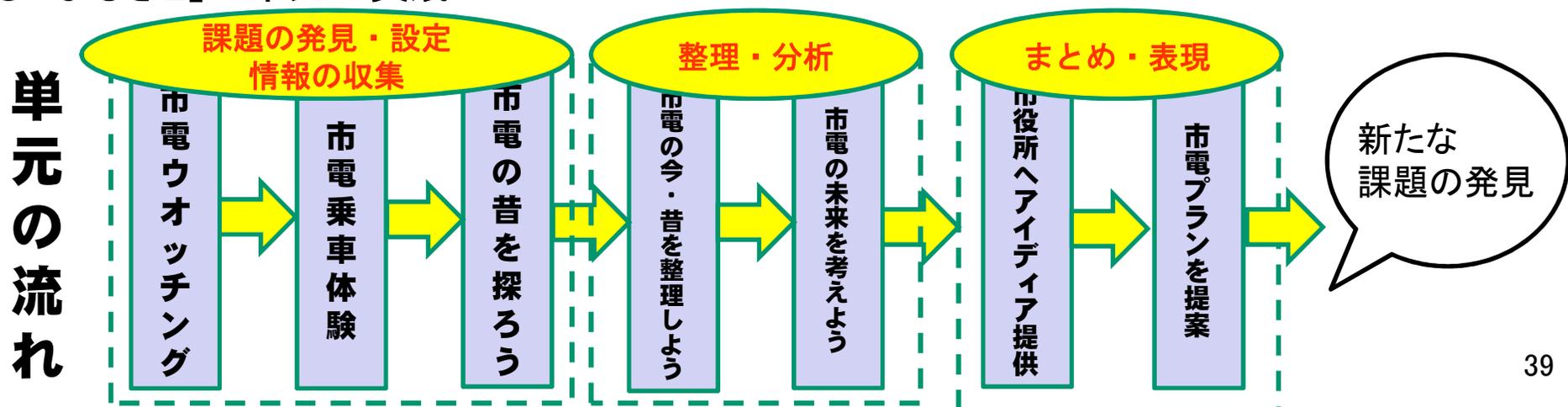
育てようとする資質能力を、「問題を見付け追求する力」、「自分を見つめる力」、「自分から働きかける力」の三つに設定し、総合的な学習の時間の実践を行っている。

○第5学年の指導計画

年間を通して上記、三つのテーマに応じた、三つの単元を設けて実践している。

テーマ	くらし 時期: 4月～7月	ふるさと 時期: 8月～11月	いのち 時期: 11月～2月
単元名	家族とともに考えよう！ 「生活改善」大作戦	支援の走る街 ～市電の今・昔・未来は～	保育園を知ろう
単元の要素	自分のスケジュールをもとに、食事・運動・睡眠について課題を見付け、家族の人と相談しながら生活を改善していく単元。	市電の乗車体験や交通資料館見学などを通して、課題を見付け市電の今・昔・未来について考え、自分たちにできることを発信する単元。	複合施設である本校の特色を生かし、1階に併設している保育園の園児との交流を通し、人のかかわりやいのちの大切さについて考えさせる単元。

○「ふるさと」の単元の実践



総合的な学習の時間の取組事例(B小学校①)

B小学校の教育目標

- (1) 自分でよく考え工夫する子
- (2) ねばり強く前向きに取り組む子
- (3) 人の立場に立って行動する子

「総合的な学習の時間」の目標

- (1) 身近な地域の人や自然・社会との関わりを通して課題を見付け、協力しながら、情報収集を行う。整理・分析のプロセスで思考ツールなどを活用し、協同的に学び合い思考・表現などの能力を育成する授業と指導計画の工夫改善を行う。
- (2) 児童の課題解決に必然性のある「思考・判断・表現する言語活動」を習得活用する。えた、指導力ある人材の育成を目指す。
- (3) 地域に生きる一員として親しみと愛着を深め、自分の生き方を考えることができるようにする。

「総合的な学習の時間」で扱うテーマ

地域・・・自分たちの街に住む人、自然、文化、生活の実際

食生活・・・食をめぐる問題と地域の農業や生産者

環境・・・地域・自然環境の特色をふまえ、学校の環境の整備と維持

キャリア・・・伝統文化に込められた人の心と価値、自分の未来を見据えた職業観⁴⁰の構築

総合的な学習の時間の取組事例(B小学校②)

「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、言語活動を核として探究活動を展開する授業の工夫・改善に取り組む。

発達の段階に応じて、思考・判断・表現する言語能力を整理し、具体的な単元と結びつける。

		低学年	中学年	高学年
思考・判断	比較する	対象について、相違点や共通点を見付けること	対象について幾つかの視点から相違点や共通点を見付けること	対象について幾つかの視点を決め、その視点に、重要度を付け、相違点や共通点を見付けること
	分類する	相違点や共通点を基に仲間分けをすること	比較して見付けた相違点や共通点を基に、意味をもって、仲間分けをすること	比較して見付けた相違点や共通点を基に目的や意図をもって、仲間分けをすること
	関連付ける	今までの体験や知識とつなげたり、気づきや思いなどを比喻のような形で他のものに置き換えたりすること	言葉と言葉のつながりや、言葉と体験のつながりを見い出すこと	目的や意図をもって言葉と言葉のつながりや、言葉と体験のつながりを見いだすこと
	多面的に	自分以外の立場に立って、気持ちや考えを想像すること	自分の立場に加え、他者の立場、他の条件を考え別の見方をすること	自分の立場に加え、他者の立場、複数の条件を考え、別の見方をすること
表現	読み取る 適切に	五感で感じ取ったことを言葉に置き換えること	体験したことや、感じ取ったことから、自分なりの考えをもつこと	体験したことや、感じ取ったことから、自分の言葉に置き換えたり、意味付けたりしながら自分なりの考えをもつこと
	分かりやすく伝える	気付いたことや考えたことを自分なりの方法で表すこと	伝える相手を意識し、絵や図と言葉を組み合わせ順序よく表すこと	相手に分かりやすく、自分の意図が伝わるように、順序や方法を工夫して効果的に表すこと

総合的な学習の時間の取組事例(C中学校①)

～総合的な学習の時間のガイドブックを作成し、課題解決に向けたプロセス(学び方)の提示～

当該校における総合的な学習の時間の四つの目標

1. 問題解決能力を高めよう

課題を「つかみ」、必要な情報を計画的に「さぐり」、集めた情報を整理・分析して「みがき」、成果をまとめて「ひらく」という手順で、様々な問題を主体的に解決できる力を身に付けよう。

2. ICT活用能力(情報活用能力)を高めよう

情報の集め方、調べ方、分析の仕方、上手なまとめ方、報告や発表・討論の仕方などの「学び方」や「ものの考え方」などを身に付けよう。

3. 社会性やコミュニケーション力を高めよう

社会人・職業人としてのルールやマナーを理解し、適切に行動できるようになるよう。

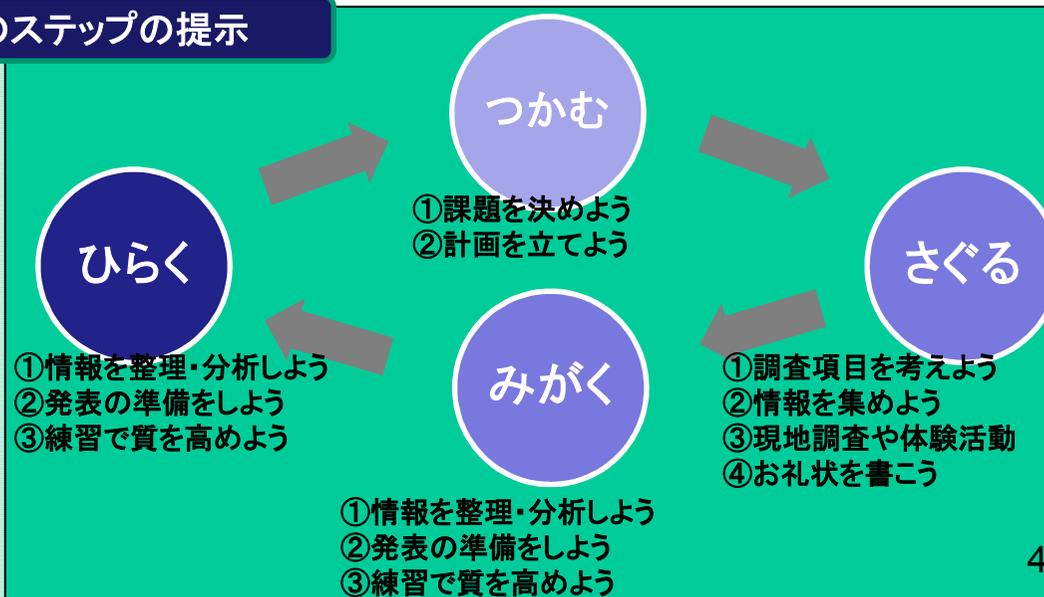
4. 将来の生き方を考えよう

様々な体験や学習を通して、自分の将来の生き方について考え、自分を高めていこう。

総合的な学習の時間の学習を進める上での四つのステップの提示

総合的な学習の時間の学習を進める上で、「つかむ」、「さぐる」、「みがき」、「ひらく」の四つのステップが重要であることや、実際この四つの視点をもとに学習を進めていく上でのアドバイスなどをまとめたガイドブックを作成し配布。

学び方を学ぶことにより、**課題解決に向けたプロセス(学び方)**を知ることができ、より効果的、効率的に課題解決に向け挑戦する姿が期待できる。



総合的な学習の時間の取組事例(C中学校②)

つかむ

自分が調べてみたいことや、やってみたいことを、どれだけ上手に「つかむ」ことができるかによって、探究活動や体験活動の充実度は大きく変わってまいります。自分の課題をしっかりと「つかむ」ためには、どんなことをするとよいのでしょうか。

(1)「なぜ?」「どうして?」から見つけよう

日々の体験や、新たな体験の中から、「なぜ?」「どうして?」を見つけよう。さまざまなことに積極的に参加することで、考えが広がるね。

(2)各教科から課題設定のためのヒント

教科の授業で学んだことやこれから学習することから、探究したい課題を考えるのも良い方法です。各教科の先生からのアドバイスを読んで、学びたいことのイメージをふくらませよう。

(3)計画を立て、見直しをもとう

さぐる

(1)どうやって「さぐる」のかな?

自分で足を運んで地域に暮らす人たちから直接話を聞いたり、実際に体験したりしながら、課題解決のためにいかに情報を「さぐる」かが重要なポイントとなります。課題について「さぐる」ために、どのような方法があるのでしょうか。

- ①本から情報を集めよう
- ②新聞記事から情報を集めよう
- ③インターネットで調べよう
- ④アンケートをとって情報を集めよう
- ⑤人に直接会って話を聞き情報を集めよう
- ⑥実際にやってみて情報をあつめよう

(2)学校での、情報の集め方

- ①現地調査での情報集め
- ②人に会うときの連絡の取り方
- ③現地調査が終わったら、お礼状を出しましょう

(3)現地調査に行く前に行った後

- ①図書室での文献調査
- ②コンピュータでの情報収集
- ③情報を借りるときのマナーを守ろう
- ④アンケートでの情報収集

みがく

(1)今まで学んできたことを「みがく」とは?

調査後に、集めた情報を分析し、課題について考えたことや実践してきたことを発表し、話し合っ、お互いに学びを「みがく」ことが大切です。お互いに学びを「みがく」ために、どうしたらよいのでしょうか?

(2)集めた情報を、整理しよう

- ①調査項目にそって、必要な情報を選ぼう。
- ②集めた情報を組み合わせ、新たに整理する
- ③写真を並べたり、地図やイラストをかいたり、模型を作ったりしよう

(3)集めた情報を、分析して、考察を深めよう

- ①整理したものを利用して、より深く分析してみよう
- ②より深く考察してみよう

ひらく

(1)学習発表会で、学んだことを広めよう

- ①発表会で発表しよう
- ②話し合おう
- ③研究冊子にまとめよう

(2)学んだことを、生活や将来に生かそう

- ・一連の活動を通して、やり残したことや、新たに気付いた課題はないか
- ・生活の中で生かせる場面がないか
- ・将来の自分につながることは何だろう

(3)発表会に向けて準備しよう

- ①伝えたい内容を考えよう
- ②発表方法を決めよう

(4)研究成果を、冊子にまとめよう

(5)総合的な学習の時間で考えた課題と各教科とのつながりを考えよう

総合的な学習の時間の取組事例(D中学校)

■B中学校(第1学年)

「中学校の魅力探検」をテーマに、創立から今までの歴史や、地域や異校種の学校との繋がりなど、様々な観点から学校のよさを見つけだし、それを未来へつなげていくという活動を実践。

○育成すべき資質・能力

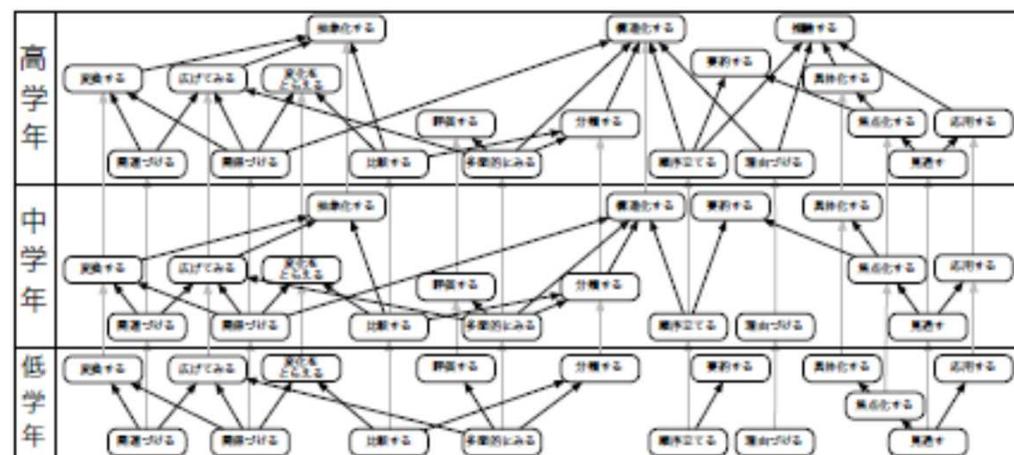
上記学習を進めていく上で、重視する能力・態度及び、その評価規準を以下のように整理している。

能力・態度	GRADE I	GRADE II	GRADE III	評価の観点
① 批判的に考える力 《批判》	インタビューやアンケートなどで情報を収集し、多様な方法で考えることができる。	様々な方向から客観的な情報を収集し、公平な判断ができる。	他者の意見や情報をよく検討して、よりよい判断策を考えることができる。	情報収集・活用能力
② 未来像を予測して計画を立てる力 《未来》	他者の意見を共有し、自分たちで未来を予想・予測・期待することができる。	過去・現在からよりよい未来をつくるために、今自分たちができることを計画することができる。	京山地区に住む人々に、より質の高い生活をもたらす提案をすることができる。	問題解決能力
③ 多面的・総合的に考える力 《多面》	地域の良さや課題に気づき、京山地区を多面的に見ようとするすることができる。	関係者、出来事、社会情勢、自然などを理解し、多面的に考えることができる。	課題が、社会・経済各方面において、複雑絡み合っていることを理解し、多面的・総合的に考えることができる。	
④ コミュニケーションを行う力 《伝達》	地域のいろいろな人と出会って、積極的に自分の考えを伝えたり、話を聞いたりすることができる。	自分の考えをまとめ、他者の意見を取り入れながら、他者によりよく伝えられる方法で発信することができる。	他者の考えを尊重しながら自分の考えをまとめ、他者によりやすく発表・発信することができる。	対人関係の能力
⑤ 他者と協力する態度 《協力》	班内で互いの意見を集約し、協力して取り組もうとしている。	地域や関係機関とのつながりを深め、協力して考えを進めようとしている。	自分の身近な問題について他者と協力して物事に取り組もうとしている。	学習活動への関心・意欲・態度
⑥ つながりを尊重する態度 《関心》	地域のことを調べることで、地域とのつながりに気づいている。	地域の理解を知り、地域で役に立つ活動を行おうとしている。	地域の課題を見つけ、その解決策について考え、解決に向けて発信しようとしている。	
⑦ 自ら進んで参加する態度 《参加》	班内での自分の役割に責任を持ち、進んでグループ発表をしようとしている。	まとめた内容に責任を持ち、それらを校内や地域等へ出て発表・発信しようとしている。	広い視野で私たちの身近な問題と向き合い、解決策を発信し、解決の活動に取り組もうとしている。	

※第2学年では平和、第3学年では環境をテーマに実践を行っており、それぞれについて、上記のような評価規準を設定しており、3学年を通じて育成すべき資質能力を明確にしている。⁴⁴

総合的な学習の時間において育成するスキル(例)

思考スキル	定義
多面的にみる	多様な視点や観点にたって対象を見る
変化をとらえる	視点を定めて前後の違いをとらえる
順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える
比較する	対象の相違点、共通点を見つける
分類する	属性に従って複数ものをまとまりに分ける
変換する	表現の形式(文・図・絵など)を変える
関係づける	学習事項同士のつながりを示す
関連づける	学習事項と実体験・経験のつながりを示す
理由づける	意見や判断の理由を示す
見通す	自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する
抽象化する	事例からきまりや包括的な概念をつくる
焦点化する	重点を定め、注目する対象を決める
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する
構造化する	順序や筋道をもとに部分同士を関係づける
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する
具体化する	学習事項に対応した具体例を示す
広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする



「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討 ～学習指導要領とその解説の分析から～」
 (泰山裕、小島亜華里、黒上晴夫 日本教育工学会論文誌)

総合的な学習の時間の成果と課題

成果

- **総合的な学習の時間への取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている**

全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より

- **総合的な学習の時間との関連を意識して、学校全体として探究的な学習を行う実践が進められている。**

スーパーグローバルハイスクール、研究開発学校等

課題

- **各学校における指導方法の工夫改善や校内体制の整備等による格差解消**

一部の学校(特に中学校・高等学校)において、「ねらいや育てたい力が不明確で、児童生徒自身が、何のために活動を行い、何を学んだか自覚できていない。」「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる。

- **総合的な学習の時間のカリキュラムの適切な編成・実施・評価・改善**

地域や生徒の実態等の現状を把握した上で、総合的な学習の時間の目標・内容の設定や、全体計画や年間指導計画の作成に適切に取り組めていない学校がある。また、実施状況の評価を改善に反映できていない学校がある。

- **学習成果の検証と社会的価値の発信**

総合的な学習の時間の重要性は認知されてきているが、そこではぐくまれる資質・能力や態度の具体的な検証や、それらの社会的価値に関する情報発信が不十分である。

高等学校 総合的な学習の時間の在り方について(検討素案)

改善の視点

成果

- 総合的な学習の時間への取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている 全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より
- 総合的な学習の時間において育むべき力や学びの在り方をカリキュラム・マネジメントの核としながら、学校全体として探究的な学習を行う実践が進められている。 SGH、研究開発学校等

課題

- **各学校における指導方法の工夫改善や校内体制の整備等による格差解消**
一部の学校(特に中学校・高等学校)においては、「ねらいや育てたい力が不明確で、児童生徒自身が、何のために活動を行い、何を学んだか自覚できていない。」「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備など学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる。
- **総合的な学習の時間のカリキュラムの適切な編成・実施・評価・改善**
地域や生徒の実態等の現状を把握した上で、総合的な学習の時間の目標・内容の設定や、全体計画や年間指導計画の作成に適切に取り組めていない学校がある。また、実施状況の評価を改善に反映できていない学校がある。
- **学習成果の検証と社会的価値の発信**
総合的な学習の時間の重要性は認知されてきているが、そこではぐくまれる資質・能力や態度の具体的な検証や、それらの社会的価値に関する情報発信が不十分である。

検討の方向性(例)

◆各学校が総合的な学習の時間を通じて育むべき資質・能力の考え方を明らかにする

○実社会・実生活の課題を探究的に学ぶことにより、教科等の文脈を越えて自ら課題を発見し解決する力や他者と協働する力などの汎用的な資質・能力を育て、それを実社会で活用できるようにすることを重視

○主に育成する資質・能力や内容、指導方法の例示の体系化、高度化 の検討

○育成する資質・能力や態度を支える、教科横断的に考える技法を体系的に指導

◆学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の意義を改めて明確化する

○各教科等を通じて身に付けた力を総合的に活用できるようにし、地域の課題や社会的要請に対応

(国際理解、情報、環境、福祉・健康や防災・安全、地方創生、創造的復興、ESDなど)

教育目標の分類学 (ブルーム・タキソノミー)

ブルームの教育目標分類学 【認知的領域】 (Bloom,B.S.他)

- ① **知識** 情報や概念を想起する
- ② **理解** 伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
- ③ **応用** 情報や概念を特定の具体的な状況で使う
- ④ **分析** 情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
- ⑤ **総合** 様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
- ⑥ **評価** 素材や方法の価値を目的に照らして判断する

改訂版ブルーム分類学 (Anderson,L.W.他)

知識次元	認知過程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事実的認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

学習プロセスのイメージ（例）

動機付け ⇒ 方向付け ⇒ 内化 ⇒ 外化 ⇒ 批評 ⇒ 統制

動機付け

主題に対する意識的・実質的な興味を喚起すること。
学習者が、これまでの知識や経験では目の前の問題に対処できないという事態に直面すること。

方向付け

問題の解決を目指して学習活動を開始すること。
問題の解決に必要な知識の原理と構造を説明する予備的な仮説（モデル）を形成すること。

内化

問題の解決に必要な知識を習得すること。
新しい知識の助けを借りて、予備的なモデルを豊かにしていくこと。

外化

習得した知識を実際に適用して問題の解決を試みることに。
問題を解決し、現実の変化に影響を及ぼし革新を生じさせる際に、モデルをツールとして応用すること。

批評

問題の解決に知識を適用する中で、知識の限界を見つけ再構築すること。自分の獲得した説明モデルの妥当性と有効性を批判的に評価すること。

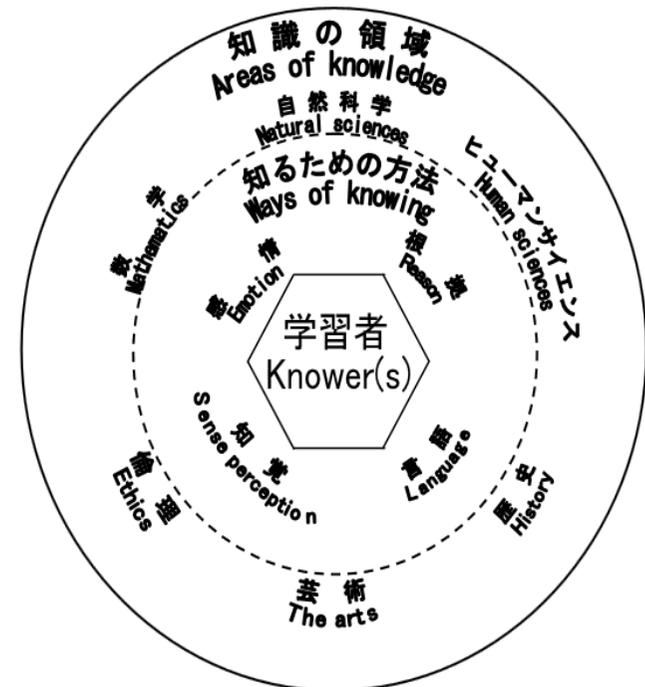
統制

一連のプロセスを振り返り、必要に応じて修正を行いながら、次の学習プロセスへと向かうこと。

(参考) 国際バカロレア (DPプログラム) のTOK (Theory of knowledge)

TOK(Theory of Knowledge) の学習目標

- ①知識が示すもの、その前提にあるもの、背後にある意味などを批判的に分析する。
- ②「学習者」としての生徒自身の経験や「知識の領域 (Areas of knowledge)」、「知るための方法 (Ways of knowing)」などの学習に基づいたKnowledge Issueに関連する質問、説明、推測、仮説、仮説への反論、可能性のある解決法を導き出す。
- ③ Knowledge Issueに対する様々な異なる考え方や認識について理解を示す。
- ④ Knowledge Issueへの様々なアプローチの仕方について関連付けや比較を行う。
- ⑥ Knowledge Issueへの取組に個人的に自覚を持って対応できる能力を身に付ける。
- ⑥ 学問的誠実さ、正確さに十分に配慮をしながらアイデアを練り、他者へはつきりと伝える。



TOKダイアグラム

TOK(Theory of Knowledge) について

DPプログラムを修了するためには、六つのグループ（第1言語、第2言語、個人と社会、実験化学、数学とコンピュータ科学、芸術又は選択科目）を学ぶほかに、必要となる要件の一つ。

学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味して、理性的な考え方と客観的精神を養う。

言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて、偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。

(参考) 持続可能な開発のための教育 (ESD)

ESDとは

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

国立教育政策研究所が提案する、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例

- ① 批判的に考える力
 - ② 未来像を予測して計画を立てる力
 - ③ 多面的, 総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他社と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度
- など

ESD概念図

